

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	NPO 法人 c o t o r i
-----	--------------------

取組の名称	cotori のおやこ広場&こども食堂
実施場所	川崎市麻生区百合丘 1-3-11 保育園 cotori 内
対象地域	主に麻生区・多摩区・宮前区、その周辺地域
対象地域の特色・課題	<p>□特色</p> <p>対象地域である多摩区、麻生区は、神奈川県でも東京寄り で、小田急線、南武線を利用した都内へのアクセスも良い 街です。また、古くからの地域コミュニティーがあり、神 社での夏祭りやなど地域のイベントも盛んで、高齢者にも 住みやすく、川崎市の中でも比較的生活水準の高い地域で あると言えよう。</p> <p>その一方で、経済格差も大きく、目に見えにくい相対的貧 困を孕んでいることが懸念される。</p> <p>□課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化の進行や出産年齢が上がっていることで、サポ ート役となるはずの祖父母が高齢となり、身近な子育て経 験者のサポートが受けにくい状況にある家庭が増えてい る。 ・夫婦共稼ぎ世帯の増加により、出産後約 1 年で職場復帰 する母が多く、ママ友を作る機会がないまま復職してしま うため、ピア的な横の繋がりが少なくなっている。結果、 相談先が公的機関や保育園に集中してしまう。 ・未所属児童の場合は、子の成長に伴い家庭だけの養育を 持て余したり、母自身の時間が欲しいと思うものの、自身 の都合で子を預けることに罪悪感を覚えたり、預け先が少 ないことに困っている方が多い。

	<p>・地域には、子育て支援センター等があるが、「いつ行っても人がいない」との話を聞く。気持ちを吐露する場や発散する場所がないとの理由から、母子だけで過ごすことに孤独感や孤立感、焦燥感などのストレスを感じ、養育意欲の低下や夫婦間のトラブルに発展することも少なくない。</p>
<p>取組の趣旨・目的</p>	<p>現状を解決するためには、保護者の多様な要望に応える保育施設の拡充や、保護者が抱える子育てに対しての様々な悩みに耳を傾け、保護者の負担軽減を図ることや、地域ぐるみで、子育てをする環境づくりが大切であると考えます。</p> <p>①おやこ広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援として、施設開放し、乳幼児や保護者が自由に遊んで過せる場所、気軽に親同士の交流が図れる場所を提供する。(cotori おやこ広場) ・利用者が手ぶらで気軽に来られるよう飲み物、おやつ、お尻拭き等を用意しているため、これまでは利用料 500 円を徴収していたが、前年度は本助成金を利用させていたあき無料で参加できるようになった。引き続き今年度もそのように致したい。 ・ボランティア等で保育スタッフを増やし、母が子と離れ、ホッとする時間を設ける。 <p>②こども食堂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂を通して、地域の誰もが立ち寄れる居場所作りを目指す。参加者を子どもに限らず、「だれでも」と間口を広げることで、老若男女問わず孤食や孤独に陥ることのないよう、地域の世代間交流の場としたい。
<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>①おやこ広場</p> <p><input type="checkbox"/>実施スケジュール</p> <p>毎週月曜日 10:00~12:00</p> <p>計 39 回</p> <p><input type="checkbox"/>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成を利用し参加費（500 円）を無くして参加負担を軽減する。 ・保育ボランティアスタッフを増やし、気軽に子育て相談ができるようにする。 ・コーヒーやお茶など、飲料を用意し、参加者がホッと寛

	<p>げて、参加者同士が交流できる場作りをする。</p> <p>②こども食堂</p> <p>□実施スケジュール</p> <p>毎月第2日曜日 12:00~14:00</p> <p>計12回</p> <p>□実施内容</p> <p>毎回60食~70食を提供する。地域の「だれでも」参加できるこども食堂として、子どもとともに子育て世帯の保護者や地域の高齢者、近隣の大学生など世代間交流の場とする。</p>		
参加者の年代	<p>①おやこ広場</p> <p>0歳~未就学まで</p> <p>②子ども食堂</p> <p>0歳~シニア</p>	<p>定員</p> <p>(1回あたり)</p>	<p>①おやこ広場</p> <p>5~10組程度</p> <p>②子ども食堂</p> <p>50~60名程度</p>
実施頻度	<p>① おやこ広場</p> <p>週1回程度</p> <p>②子ども食堂</p> <p>月1回</p>	<p>活動日数</p> <p>(年間)</p>	<p>51日</p>
スタッフ体制	<p>①おやこ広場</p> <p>常勤職員1名</p> <p>有償ボランティア3名</p> <p>②子ども食堂</p> <p>常勤職員1名</p> <p>有償ボランティア 5~10名</p> <p>(配膳スタッフ 6名 / 調理スタッフ 4名)</p>		
連携する団体・ 連携の手法	<p>◆チラシを配布 (NPO アイゼンさんのチラシに掲載)</p> <p>多摩・麻生区の保育園・幼稚園・商店など40ヶ所以上</p> <p>麻生区小中学校へ6000枚のチラシ配布 年6回</p> <p>◆WEB</p> <p>Instagram、ホームページ、PRtimes 告知</p> <p>◆自治体 (麻生区、多摩区役所) への案内</p> <p>◆多摩区ソーシャルデザインセンターへの案内</p> <p>◆cotori マガジン発行</p> <p>◆明治大学ボランティアサークル Links さんの協力</p>		

<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>おやこ広場では 0 歳～未就園までの子を持つ保護者が集い、同じ子育て世代同士で話をする機会となり、子育ての苦労や不安などを語り合い場面が見られた。それにより、子育て中の保護者の孤独感や孤立感を軽減し、育児への前向きな気持ちを支える効果があった。</p> <ul style="list-style-type: none">・異年齢の保護者が集まることで、月齢の低い子の保護者が、近い将来の子育てのイメージが持てるようになっていた。・保活や、子どもの遊び場、便利グッズ等、保護者同士の情報交換の場になっていた。他に、市外からの転入者がかかりつけ医院を探していて、他の参加者から有用な情報を得る場面も見られた。・「こども誰でも通園制度」について、質問されることが多かった。実施施設として、有益な情報を与える事が出来た。・広く知られ、好評を得ているこども食堂には、普段保育園に通園している子どもが家族で参加したり、卒園児が懐かしんで参加するなど、地域の世代を超えた人々を繋ぐ場所となり、地域の憩いの場として寄与することができた。
----------------------------	---